

大生院の地名と史跡について 目次

○正法寺裏山	権現社	3	■裏山	炭焼き場	3
■正法寺裏山	掲揚台跡	4	○妙見神社		5
○王神社		7	○王塚		7
■上本郷		8	■下本郷		8
○伊賀さん (高橋伊賀守墓所)		9	■栗林		9
○泉大師		10	○小野宮		10

■川口		11	■落合		12
○稻荷山		13	■銚子の滝		13
■銀杏の木		15	■岸影		16
○徳見堂		16	■戸屋之鼻		17
○貴船神社		18	■喜来		18
■高山		19	■旦の上		19
■亀の甲		19			

数字はページ番号

正法寺裏山 権現社

正法寺裏山の頂上にあります。昭和初期には権現社までの道に鎖がつけられ行場となっていました。現在、鎖はありませんが、急な斜面を登ると権現社に参拝可能です。言い伝えでは、昔、暴れて荷車を引かない牛がいました。ところが正法寺の権現様の方角にむかって歩かせると近づくにつれおとなしくなり荷車をひいたとのこと。

岸影 渡辺幸雄 談



裏山 炭焼場跡

尾根の権現様から少し下ったところに炭焼きの跡があります。裏山は今は杉や桧（ひのき）がた

くさんありますが以前はクヌギや樅（つばき）等、雑木がありそれを先代の住職 大温師がお寺も貧しく檀徒の方に差し上げられる物もないので山の木を切り炭を焼いて年末に配っていたとのこと。今は裏山に住んでいる猪（いのしし）のねぐら兼遊び場となっています。

裏山 掲揚台跡

裏山の話

掲揚台跡 正法寺の裏山の尾根道に長さ一メートル程の石があります。この石は戦時中に国旗を毎日揚げていた台座だということです。裏山に登る道は結構大変です。その道を毎日当番を決めて登り学生達が国旗を掲揚していました。当時は杉や桧も大きくなくそこから大生院が一望できたとのことです。学校の方では授業はそこに運動場に畑を作るなど勤労奉仕がほとんどで



食料が乏しい為、すき腹での作業は大変つらかったとのこと。今は食事も物もありふれている平和な世の中に感謝しなければなりません。

岸影 大角一博 談



妙見神社

菊理姫の命を祀っている神社です。昔この地の小野某に神憑(がかり)があつて地中より神鏡を掘り出しこの鏡を厚くおまつりするならば人々の眼病を治すとのお告げがありその後、社殿をお造りしたところ人々の祈りに対して靈験があつたとのことで、眼病平癒の神として崇敬されています。毎年一月の初午(はつうま)の日に祭りが行われ多くの参拝者で賑わっている。古い言い伝えでは、文政六年に船屋(玉津村)の長七の娘「タケ」が八歳のとき、眼病にかかり、神仏に願いをか

け朝、夕お祈りをしていたところ、ある夜、正木(妙見神社周辺の地名)に鎮座している妙見宮にお願いをしながらと夢の中にお告げがあり朝夕一心に妙見宮にお参りをしたところ、七日目の朝

に顔を洗っていると目の痛みがとれ目の病気がなおり、親子は妙見宮に感謝し、そのときの記録を神社におさめたという話が残っている。本殿の脇には目の病気がなおるといふ泉があります。

大生院村 村長 久枝馬之丈氏の『大生院史』参照

一月の初午の日の様子



王神社

写真 右中ほどの鳥居が入り口

正法寺裏山の西の端にあります。百段余りの石段を登ったところにある神社です。社の中の御神体はありません。王塚との関連が昔からあるといわれていましたが、はっきりとしたことがわかりません。天智天皇を祀っているとの言い伝えもあります。平成十年ころ博物館の方がこられて藤原純友との関連を調べておられました。王という名のつく神社は珍しいという点と、かつて正法寺が大寺院であり、旧寺域であった田畑からたくさん泥塔が発掘されているという点で興味をもち調査を行っているということでした。

王塚

王塚は正法寺の前の畑にあります。塚の周囲は二十メートルほどで、高さは一・五メートルくら



いの大きさがありません。誰のものか、何のために作られたかは定かではありません。言い伝えではこの土地を開いた豪族の方を祀っているとのことでした。

上本郷

江戸時代には本村と呼ばれていました。代々庄屋さんの家(高橋家)がこの地区にあり、その為、本村の名がついたようです。上本郷と呼ばれるようになったのは昭和になってからのようです。江戸時代 大生院は小松藩の所領で小松のお殿様のお狩り場であったとのことでした。その際に当時の庄屋さんが村を案内し、宿の世話をを行ったとのことでした。

下本郷

かつての本村より上本郷と下本郷に名が分かれました。※上本郷を参照

■伊賀さん（高橋伊賀守墓所）

大生院の上本郷にある祠（ほこら）。天正年間に活躍した武士。高橋伊賀守を祀っている。大きな椋（むく）が目印。毎年夏に高橋家の一族の方たちが集まり法要が行われる。

昔話の項目参照



■栗林

栗の木がたくさん植えてあったことが由来のようです。昭和20年頃の米軍が撮った航空写真を見ると本当に林となっています。ご年配の方は団栗林（どんぐりばやし）と言う方もおられたので木の実も多くとれたのだと思います。

■泉大師

栗林地区にある泉。弘法大師がみつけたという泉。地区の人々によって管理されている。江戸時代に大生院の庄屋高橋家により渦井川の東岸地域に農地が作れるようにこの水系が整備された。

■小野宮



小野宮は戸屋之鼻にある神社です。一時、王神社に合祀されたこともありましたが戸屋の鼻の方々や小野家の一族の協力で今の場所にお社が建てられました。小野小町を奉っているとの説もありますが定かではありません。昔は椎の木がたくさん植えられていました。明治三十五年飯積神社の記録には、境内坪数七百八坪、氏子六十五戸社殿は一間半と二間。明治四十二年王神社に合祀された折に、一の鳥居は小野宮のものが用いられています。合祀までは小野谷と岸影の氏神で

あったといわれています。昭和八年に再度今の場所に王社から分社し祀られました。

岸影 小野教矢 談



■川口

大生院を流れる渦井川の流れ始めるところという意味があるようです。春の桜は見事です。

■落合

落ちあうが語源のようです。大野山への道と大生院の道が交わるという意味と話合いをしたところという意味があるようです。愛媛鉱山があったころの昭和初期には山から鉱石を載せたトロッコが川沿いを通り中萩駅へと続いていました。



■稲荷山

頂上にはお稲荷さんが祀られている。春の桜の時期が美しい。近年、川べりが地区の人々の力で整備され蛍祭りが初夏に行われています。



ります。ヤマブキが多く、初夏には色鮮やかな渓谷となります。滝が重なり美しい。



銚子の滝へ行く途中の滝、小

桜の頃



銚子の滝

湧井川の上流にある滝。滝口のところが凹型になっており、銚子の口に似ているので、この名前がつけられました。落差が三十メートル程あり滝つぼからは、水しぶきが霧状になり夏場には本当に涼しく最高です。滝までの歩道には高山植物もみられ、こちらも快適な山歩きができます。思います。滝に到着するまでに、何箇所か小さな滝が落ちているところがありそちらも見応えがあ



岩にしがみつくように生えているモミジ



通称「根性もみじ」 樹高は十メートル以上

十年前前に松山空港の待合に銚子の滝のバネルが貼られていました。

銀杏の木

正法寺前の田の中に堂々とした大きな銀杏（いちちょう）があります。かつてはさらに大きかつ



たようで明治時代に暴風により折れ、そこから今の姿になったようです。明治以前にも落雷により折れたりしたようですが、たくましく成長しました。秋の紅葉の頃は雄大で美しい姿をみせてくれます。またこの銀杏は、雌株でぎんなんがとれます。この地区の名前「銀杏の木」はこの木に由来します。

岸影

昔、鴻井川は蛇行を繰り返していたようで、今の位置より西を流れていたようです。つまり岸影のあたりが川の岸辺ということでの名が使われたようです。また桑畑があり養蚕も行われていたということです。

渡辺幸雄 談

徳見堂

江戸時代の正法寺住職、栄澄上人が隠居したお堂です。岸影地区にあります。夏には地区の方たちによって地藏祭が行われています。



江戸時代には寺子屋として明治期には小学校として使われていたこともあります。

■ 戸屋之鼻

鼻はこのあたりの方言で端という意味で村の端にある家々という意味でこの名が伝わったようです。また久枝家の本家の屋号が鳥屋ということで江戸時代の過去帖には鳥屋之端という記述も見られます。

■ 貴船神社

大生院の戸屋之鼻地区上部にあります。高速道路より南側になります。管理はこの地区の方々が行っていきます。

この神社にはかつて二メートル程もある大岩があり当山の住職 栄澄上人が雨乞い（昔話を参照）を行ったといわれます。大岩は鳥居の右側にあったそうですが

明治二十七〜三十二年頃の大水害の折流れてしまったと



17

いうことです。鳥居もそのときに崩れたそうです。神社前の川の上流には滝があり修行に使われたとのこと。現在の社は大水の後、昭和三十年頃に再建されたものだと思います。

戸屋之鼻 久枝増夫 談

■ 喜 来

諸説の名の由来がありますが、江戸時代飢饉（ききん）があり年貢米を、軽減してもらったことから名付けられたという説、奈良時代に渡来人の人たち、京都より秦氏が移り住んだ地という説があります。秦氏は機織りや寺院の建立など様々な技術を伝えたと言われています。京都 太秦の広隆寺の造営を行ったとされている。

秦（しん） ㊦ 秦（はだ） ㊦ 半田（はんだ） ㊦ 波多野（はたの） ㊦ 神野（しんの、かみの、じんの、かんの）



18

■高山

戦時中、航空本部の倉庫があった。なだらかな衣笠山系の中で、ひとときわ急峻で人家に近かったため高山と名付けられた。別名「いさはん山」とも呼ばれる。所藪の伊三さんという山主の名がついたということだ。昔は松茸がよくとれたという。

喜来 神野正男 談

■旦の上

平成十六年の台風災害の後、市の地質調査で大生院の地形は渦井川の浸食によって作られた地形ということがわかったようです。旦の上のあたりは、浸食を逃れ一段高い場所になっています。その為、この名がついたようです。

■亀の甲

渦井川が氾濫したときにこの地域の土地が少し高くなっていたおかげで水害にあわず、ちよう

ど亀の甲羅のように水の上にあったのでこの名がついたようです。

令和元年秋 改訂 正法寺